

# 松江市 報道提供資料

令和5年6月6日

## 件名

史跡松江城発掘調査成果の記者公開について

## 内容

防災施設整備事業に伴い、予定地の発掘調査を実施した結果、貴重な調査成果がありました。

つきましては、下記のとおり報道関係者向けの現地説明会を実施しますので、ご出席くださいますようよろしくお願いいたします。

【日時】 令和5年6月14日(水) 10:00～

【行程】 10:00 松江城本丸 天守閣正面集合

10:00～10:45 現地説明

10:45 解散

## 【問い合わせ】

文化スポーツ 部 埋蔵文化財調査 課

担当： 江川

電話：0852-55-5284

調査成果の一部を紹介します。

## 【堀尾家の家紋瓦発見！】

### 【調査の経緯】

国宝松江城天守防災施設等整備事業に伴い、令和5年4月から本丸内の発掘調査を実施しています。

30～60 cm掘り下げると、江戸時代の「瓦敷き」が発見されました。本丸内の発掘調査を行う機会は少なく、貴重な成果を得ることができました。

### 【瓦敷きとは！？】

天守北側から発見された瓦を敷き詰めた遺構です。泥跳ね防止や通路として利用されたものと考えられます。

天守の瓦を葺き替えた際の廃棄瓦を敷き均したものと思われそうですが、出土したのは江戸時代初めごろの古い瓦ばかりです。

注目されるのは堀尾氏の家紋である「分銅」をあしらった軒丸瓦の発見で、松江城内3例目の出土となりました。

また、「分銅紋」のスタンプが押された瓦も多数見つかっていますが、これだけまとまった数が出土するのは初めてのことです。さらに、松江城では初めてとなる「亀甲紋」のスタンプ瓦も確認されました。

これまで「天守も屋根の葺き替えは行われていたのだろう」と漠然と認識されていましたが、その証拠が考古学的に確認できた重要な成果となりました。



瓦敷きと分銅紋の軒瓦

### 《その他の調査成果》

①本丸に客土が施されていることを確認しました。山を削って硬い地山を出し、そこに天守を建てるのではなく、客土を行ってでも今の高さに天守を建てることに意味があったようです。

②瓦の上にも客土があることから、城下町と同じように盛土造成を繰り返していた可能性も見えてきました。